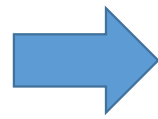


組合は直接的には生産者の所得向上を主たる目的とするが、地域、海域、河川の調整また連絡役も担っている。

地域との取組

大阪府による大阪の海のイメージについて平成26年に実施した府民インターネットモニターアンケートによると

どちらかというの良いイメージ	20%
どちらかといえば悪いイメージ	56%
どちらともいえない	24%



まだまだイメージが良くない！！

新商品（加工品）

大阪湾の魚介類を知ってもらいたい、食べてもらいたいということから関連会社の大阪市漁協株式会社にて農林水産省6次産業推進課事業の総合化事業計画の認定を受ける。

以下組合、会社で受けた新商品開発に係る助成、補助事業

- ・近畿農政局 平成25年度6次産業化推進事業
- ・大阪府 平成27年度6次産業化ネットワーク活動交付金
- ・公益財団法人 水産物安定供給推進事業
 - 平成27年新商品開発事業
 - 平成28年新商品開発事業



加工品



しらすコロッケ



しらすコロッケカレー味



タココロッケ



たこ焼きコロッケ



大阪オイルサーディン



はもじゃこ天



干しカレー



鯖さずし

淀川産天然
うなぎ

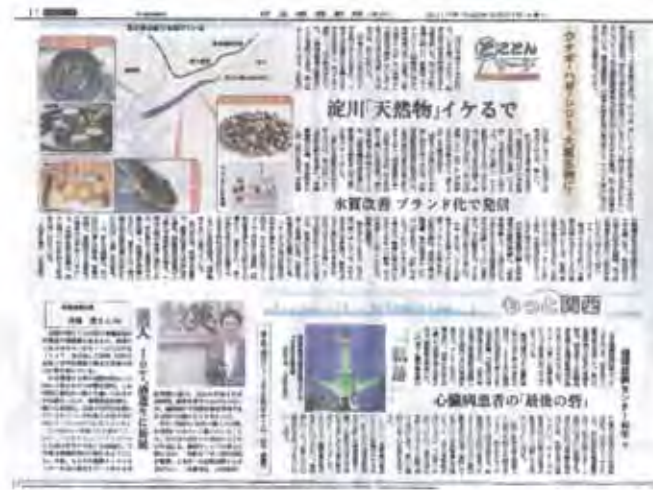


淀川産しじみ



淀川ブランド化

淀川のイメージは非常に悪い。淀川の食を主としてブランド化していくことでまずはイメージを良くする。



日本経済新聞
朝日新聞
読売新聞

地域との取組

食の都大阪グランプリ
～大阪市漁業協同組合賞～



各種イベントに参加



岸和田マルシェ



地域イベント (天保山祭り他)



市場と連携 (木津朝市)



商店街活性化イベント
(新世界商店街)

その他フィッシャーメンズフェスティバル、住吉大社初辰まいりなど

商談会



JTB主催体験
漁業見学

淀川にて刺
し網漁



H27,28,29JA農畜産物商談会



H27,28,29ジャパンシーフードショウ



H27,28,29大阪産商談会

今後の展望

大阪市は平成30年人口が271万人の大商業都市であり、市外からの観光客を含めると相当数の人が大阪市内に滞在している。このように大阪市の特徴は人が多いということである。また、夢洲には万博、IR構想があり、人が多いという特徴を活かすとともに地域と漁業が連携して地域発展に貢献していただける事業を行っていく。

また、大阪市地先海域である大阪湾奥部は、淀川河口域であり栄養分など淀川の恵みを大阪湾全体に供給する大きな役割を担っている。大阪市、淀川のみならず大阪湾の漁業、生産性向上に向け広域的な組織を組み事業を行っていく。



2025年 国際博覧会を大阪・関西へ



OSAKA-KANSAI/JAPAN
EXPO2025



World Expo 2025
Candidate

「いのち輝く未来社会のデザイン」

大阪府 大阪府庁 大阪府立大学 大阪府立大学 大阪府立大学

OSAKA-KANSAI/JAPAN

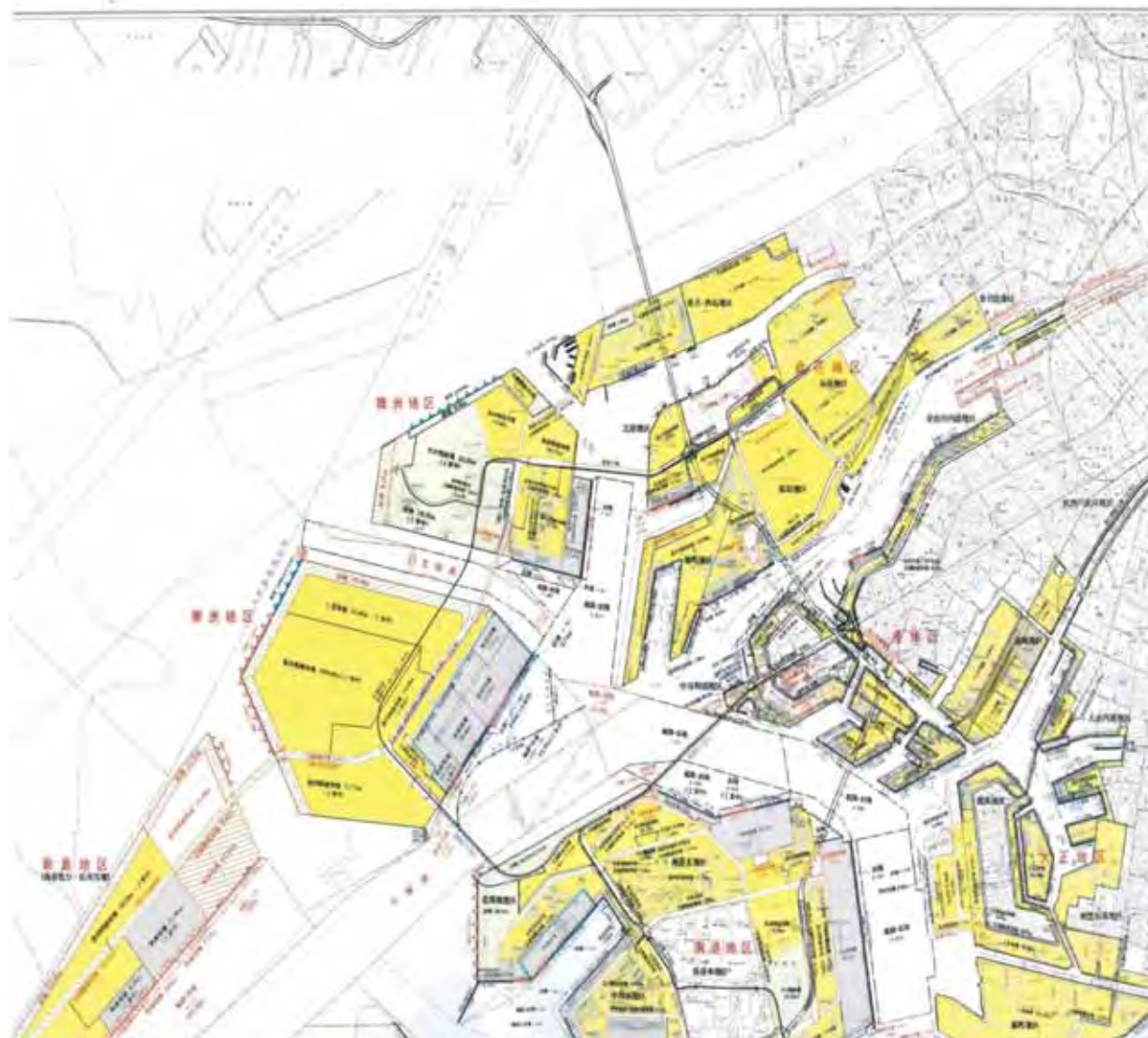
課題・目標

「都市型漁業再構築」

大阪港は港湾区域の為物流が主となり漁業などの一次産業は認識されていないのが現状である。幼稚魚の育成の場等大阪湾奥部、淀川河口は漁業生産上非常に重要な水域である。昔は漁業権があり漁業について主張はできたが、現在は港湾区域であるため漁業者の意見が通らないようになっている。そこで大阪港、港湾区域の一部の未利用地を規制緩和することにより自然な砂浜、干潟を創出し、生産可能な場にするこ
とで、漁業生産性の向上、環境改善により生産者、地域としてメリットがある環境を再構築する。

- ・ 漁業就労環境の改善や大阪港、大阪漁業のイメージアップ
淀川産しじみ、淀川産うなぎGI登録
- ・ 大阪港環境改善、干潟再生、幼稚魚育成の場の再認識
淀川河口域生物調査
- ・ 大阪港に流れ込む淀川との連携
一般社団法人淀川ブランド推進協議会連携、淀川上流域との連携
- ・ 漁業生産、流通の安定により観光や交流の場において漁業の利用促進を図る為の漁業生産拠点の整備

- ・ 食との連携
割烹及び飲食店は大阪産、淀川産魚介類を食材として使いたい。流通の整備
- ・ 大都市という地域の特性を生かす為の行政、民間企業との連携
規制緩和、民間企業とのビジネスマッチング



大量の土砂を運んでくる淀川河口域、大和川河口域は港湾区域となっている。これらの河口域は干潟、幼稚魚の育成場等重要な生産場である。これらの港湾区域の未利用地を規制緩和することにより干潟、浅場を形成し様々な機関が管理するとともに、資源管理型漁業の中で持続可能な生産を目指す。

淀川河口域水深

